

令和6年度始良・伊佐地区研究協力校「道德教育」
始良市立始良小学校道德教育研修会

1 研究主題

(1) 地区研究主題

「考え、議論する道德」に向けた授業の在り方

(2) 会場校研究テーマ

考え、議論する道德を目指して

～道德の特質に応じた「協働的な学び」の充実～



【研究発表の様子】

2 研究発表

始良市立始良小学校では、令和5年度から2年間にわたり、地区指定研究協力校として、研究・実践に取り組んできました。研究発表では、「価値観」「児童観」「教材観」を明確にした授業づくりや考え、議論するための中心発問やテーマ発問の工夫、協働的な学びのための聴き合う場・深める場の設定、「あいらの木」や「ふわふわ言葉のシャワー」等の掲示による道德性を養う環境づくりについて紹介がありました。また、選択肢の中から自分の考えと近いものを選択し自分の立場を明確にすることで、自分事として捉えることについての実践も紹介されました。

3 研究授業

2年生と6年生の2学年で研究授業を行いました。

2年生では、川原萌教諭が「およげないりすさん」の教材を使って授業を行いました。ねらいとする価値について深く考えさせるための視点として、教材に出てくる登場人物の表情に着目して考える機会を設けました。登場人物の表情絵を拡大して見せることで、心情を考えやすくしていました。その後、3～4人グループでの役割演技を行い、4人の登場人物になりきり会話の内容を考えることを通して、お互いがどのような語り掛けをしたらよいのかを考えることができました。

6年生では、弓指さえ教諭が「言葉のおくりもの」の教材を使って授業を行いました。中心発問について4つの選択肢から自分の考えに一番近いものを選択させることで、自分の立場を明確にして意見交流を行うことができました。また、「発問カード」を活用した交流活動を行うことで、考えの根拠や経験等を聞き出しながら、大切な気持ちや考え等をまとめていました。



【2年生の授業の様子】



【6年生の授業の様子】

4 分科会

分科会では、2年生と6年生に分かれ、授業研究・研究協議を行いました。授業研究では、会場校研究テーマに沿って、「ペアやグループでの議論を通して、児童は自らの考えを深めたり広げたりすることができているか。」について意見交換を行いました。研究協議では、「考え、議論する道徳」の充実に向けた授業の在り方をテーマに、各学校の取組や日頃の授業の工夫等について、グループで意見交換を行いました。以下は、研修会参加者の感想です。

【2年生】

- 学級の雰囲気明るくて温かく、役割演技をグループで行う場面でもそれが生かされ、子供たち同士よく語り合っていました。2年生なりに自分事として考えている姿（発言や表情など）がとてもよかったです。意見やつぶやきを上手にひろいながら、価値理解を深めようとしている先生の進め方も効果的であったし、大変参考になりました。
- 感情を読み取るために表情虫眼鏡や印刷を大きくするなど様々なところに工夫があり、参考にしたいと思いました。
- 子供たちが自分たちで考え、そして生活に生かせるための工夫を教師自らが教具や発問で行っていて、とてもいい勉強になりました。今回の研修を通して、子供たちに考えようという意欲をもたせるための手立てがより理解できました。

【6年生】

- 3つの観を明確にして、授業が構成されており、たいへん勉強になりました。これからクラスの中でも、ステキな言葉のおくりものが広がる様子が目に浮かびました。
- めあてから中心発問、テーマ発問、これからの自分へとつなげる授業はぜひ自分の学校にも紹介して、取り入れていきたいです。また、使ってみようのカードも参考にさせていただいて、独自のものにして活用したいです。
- 自分の立場を明確にするために数直線の活用により、子供たちがそれぞれ自分の考えをもち、その根拠をしっかりと書けていたところが素晴らしかったです。

【始良小の特徴的な取組】

協働的な学びに向けた話し合いのための「発問カード」の活用

道徳の話し合いで使ってみよう

- (登場する人の)気持ちから考えると～
- もしわしだったら～
- もし～していなかったらどうかな?
- (主人公は)自分のことをどう思っているかな?
- ～ではなくてもいいのではないかな?
- そうしたらどうなると思う?
- ～という考えはどんないいことにつながるかな?
- ～って例えばどういうことかな?
- 自分もこんな経験をしたことがあるよ!
- ～と～を比べたらどうかな?
- 他の人とのちがいは何だろう?
- (主人公は)なぜ～(できた)のだろうか?

ねらいとしている価値について大切な気持ちや考え方等を深めるために、3～4人の少人数グループでの「深める場」を設定しました。その際に、左記の発問カードを活用し、相手の意見に対して考えの根拠や経験等を聞き出すことで、双方向による深まりのある話し合いとなりました。